

海星だより

第7号 平成17年12月

広島県立大崎海星高等学校

<http://www.osakikaisei-h.hiroshima-c.ed.jp/>

”島から羽ばたく人づくり” 翔びだせ大崎海星高校

平成17年11月13日(日),大崎上島文化センターにおいて,タレントの西田篤史さんを講師に「中学・高校時代に何をすべきか ~私の体験を通して~」という演題で教育講演会を行いました。当日は250名を超える参加者が集まり,盛大に開催されました。講演会の中で,西田さんはご自身が学生時代を過ごされた庄原での体験や,幼いころに心臓を患っていた頃の母親とのエピソード,現在にいたるまでの,大切な人々との出会いなどの講話をされました。その中で,西田さんは中高生に勧めることとして「実際に触ってみること」を挙げて,今にしかできないこと,自然に囲まれている島でしかできないことをしっかりとやってもらいたいと語り掛けました。



講演会に続き,同窓生や学校関係者に西田さんをパネラーに加えたパネルディスカッションを行いました。テーマを「島の高校に求めるもの」として熱い議論が交わされました。その中で,島の高校に求めるものとして,何より存続し続けること,決して無くしてはならないということが,根底にありました。少子化が進み,さらに島外の高校に進学する生徒も増え,地元中学からの入学生徒が50%を下回っている現状を回復するためにも,他校に引けを取らないきらりと光るものを創り出していかなければなりません。議論の中では,造船科の再建や,島であるという環境を活かしたポート部の立ち上げなど,具体的な内容も出てきました。大崎海星高校では,地域住民の方や同窓生の方々からの期待に沿えるよう,教職員一同,危機感を持ち,今後の学校の存続,さらには発展に向けて努めていきます。



☆文化祭☆

ハッスルフェスティバル

2005

～はしゃげや～

生徒会長 感想<抜粋>

この度、私達新生徒会の初めての大会は、波乱に塗れつつも無事終了しました。この度の文化祭を通して、ひとつの行事を成し遂げる難しさと同時に、やりがいを強く感じることができました。文化祭当日までのどたばたした中で、多くの友達と親しくなることができました。私が悩んでいるとき、困っているとき、支えてくれる友達がいることを実感できたし、心の暖かさに触れることができました。新しいことを始めることは大変なことです。しかし途中でやめずにやり遂げたからこそ、素晴らしい経験ができたのだと思います。皆さんご協力、ご観覧有難うございました。



生徒感想<抜粋>

・この二日間で感じたことは、何をしてもみんなの個性が輝いていて、一人でも欠けたらこの文化祭は成功しなかったことだ。仲間一人ひとりのよいところを知ることができ、高校生活の大切な思い出となることに違いない。(3年)

・お客さんに多くきてもらえ、利益がたくさんあったのもよかったのですが、何より、みんなが楽しんでくれたこと、自分がすごく楽しめたことが一番心に残りました。最高に楽しめた文化祭を最高の思い出とし、気持ちを切り替えてこれからの残り少ない高校生活をしっかり過ごしたいと思います。(3年)

・テーマ「ハッスルフェスティバル2005 はしゃげや」どおり、今年、めっちゃはしゃげたと思う。来年はもっといい文化祭にしたいと思った。(2年)

・みんなそれぞれたくさんしないといけないことがあり、忙しくて大変だったと思うけど、本番になってみんなとはしゃいでいると、準備が大変だった分、楽しさはいっぱいでした。でも、文化祭はただ楽しいだけじゃなくて、みんなで一つのものを作るための協調性、諦めないことなどを友達と一緒に勉強しました。(1年)



第9回「未来Work」イラストコンテスト入賞!!

呉信用金庫が主催する、第9回高校生「未来のWork」イラストコンテストにおいて1年生の「南 弘美」さんが努力賞に入選しました。

